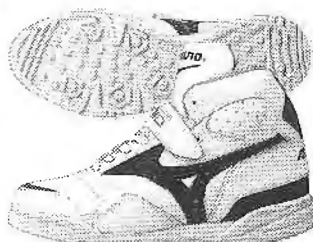
MIZUNO®
THE WORLD OF SPORTS

軽さが進化したニューラインアップ。





通気性と防水性が合体した
ニューエアリー採用。
ウィングゾーン OD-L ¥11,000
16KH-40109 サイズ:23.0〜29.0
ホワイト/パープルにブラック/ゴールド 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE



アウトドア専用のグリップ性能。
ウィングゾーン OD-S ¥7,900
16KH-41162 サイズ:23.0〜29.0
ホワイト/ネイビーにレッド/シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE

攻守に、弾む。ハンドボール協会公認の検定球、準検定球。



16OH-202
¥4,700
検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2



16OH-203
¥4,800
検定球
亀甲型
天然皮革3号
HL-3



16OH-212
¥4,400
準検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2A

RUNBIRD
ATHLETIC FOOTWEAR



●記載価格はすべて税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。
●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は——「ミズノお客様商品相談センターMUSIC」 TEL:東京(03)3233-7110 大阪(06)614-8110

新年のごあいさつ



㈶日本ハンドボール協会会長　米倉　功

平成8年度新年初頭にあたり日本協会会長としてご挨拶申し上げます。

昨年4月に会長職をお引き受けし、まもなく1年が過ぎようとしております。新年を迎えたこの時期は、この1年間で何ができ、何ができなかったかを率直に反省し、そして将来の具体的目標の再構築、そして実現に向けて再スタートする絶好の時期であります。

日本ハンドボール協会は、日本ハンドボール界のリーダーとして、ナショナルチームを頂点とする強いチームづくり、そして多くの愛好者ファンを擁する組織づくりを会長就任の課題としてあげました。

男子ナショナルチームの昨年の戦績はアイスランドで開催された第14回男子世界選手権に出場し活躍を示したものの大変残念ながらクウェートで開催されたアジア選手権大会兼アトランタ五輪予選に負け、オリンピック出場という悲願はかなえることができませんでした。しかし、オリンピック予選まで長年にわたって全日本チーム監督として手腕をふるってこられた蒲生晴明氏が任期満了となり離任し、後任には日本ハンドボール協会期待の最後の手段というべき外国人監督の就任を決定致しました。スウェーデン国籍のオルソン氏に対する期待ははかりえないものがあります。1997年の世界選手権熊本大会まで残り少ない期間ではありますが、我が全日本チームを世界のひのき舞台で活躍させてもらえるよう精一杯の努力をしていただきたいと願っております。

女子の全日本チームはオーストリア・ハンガリーで開催された第12回女子世界選手権に出場し13位タイの成績を残す活躍を致しました。大変喜ばしい限りであります。全日本チームを支える全日本女子ジュニアチームもブラジルで開催された第10回女子ジュニア世界選手権に出場し、第12位となり、しかも田中美音子選手が得点王となるすばらしい成績をあげたことは特筆されましょう。

男女全日本チームの活躍は単に彼らだけの努力や成果だけでなく、日本ハンドボール愛好者すべての者の誇りであり、我が全日本チームを支えていかなければならないものであると確信しております。全日本チームは我々のチームだということを強く意識し、皆で応援していきましょう。

一方、日本国内最高の大会である全日本総合選手権大会が男子は東京体育館、女子は神戸グリーンアリーナで開催されました。入場者数は発表されませんでしたが両会場とも超満員というには程遠いものでした。皆様方の模範となるべく日本のトップチーム・トッププレイヤーが一堂に会するこの大会を見て研究し、楽しもうとしないのでしょうか。皆様方がやっているハンドボールは愛好家である皆様方にとって魅力がないものなのでしょうか。自分たちの手で自分の好きなスポーツを大きく発展させようではありませんか。

Jリーグを初めマスコミをにぎわせているスポーツには熱狂的なファンがいるといいます。皆様方が熱狂的なファンとなって新たなファンを増やしてほしいと思います。このようなファンを大事にできる日本協会でありたいと願って努力していきたいと思います。

日本協会も各加盟団体も各チームも各プレイヤーも皆でそれぞれのハンドボールを楽しみにしていくことを期待しています。発展させ、そして強いナショナルチームになるように応援していきましょう。

新年のごあいさつ



㈶日本ハンドボール協会専務理事　中澤重夫

一歩でも二歩でも前進しようと願って発足した現執行部も、その役員体制はほとんど変わらず5年目を迎えることとなりました。この4年、少し時間がかかりましたが、日本のハンドボールの世界で、また日本での置かれた立場を、見直すことができたと思います。これらを基に残された少ない時間を有効に使って対応する必要があります。まず１９９７年・熊本での男子世界選手権の招致は驚くべくスムーズに進んだのですが、このまま準備の方も万端うまく進んでくれることを願わざるを得ません。しかし毎年の国民体育大会でさえあれだけの歳月をかけて準備しておるのです。ましてや世界の大会を残す一年有余で全ての準備を終わらせる必要があるのです。全く経験のない者達が寄って準備をするのです。世界に向けての窓と国内全域にむけてのアピールを担当する日本協会、大会場の設営と選手の迎え入れを担当する熊本、両者が車の両輪の如く回転して大会成功に向けて進む必要があります。大会が大きく盛り上がり、すばらしい大会だったと互いに喜びあえるのは開催国、日本代表チームの大活躍と上位進出にあるのは言うまでもありません。大会の成功の成否は一つにこれに関ると皆考えておる筈です。強化対策=担当理事を中心にあらゆる知能をふりしぼって対応しており、また日本リーグオーナー会議の強力な支援もあって短期決戦にいどんでいます。私は昨１９９５年、5年ぶりに出場の男子世界選手権（アイスランド）、9年ぶりに出場の女子世界選手権（オーストリア・ハンガリー）での日本代表チームの本場での活躍を見ることが出来ました。男子は一昨年来日本で行われた、世界選手権アジア予選、アジア大会、広島・熊本の両国際大会などの延長上で、また女子もアジア大会を通して今の日本の所在を直接目にしたわけです。男女両方の世界選手権を見、ＩＨＦやレフェリー、他の国の選手やスタッフにふれ、そしていろいろな国々の人々、応援ぶり、大会開催国の受け入れ方や対応、そして運営の仕方などを見聞、非常に有益な時を過ごすことができ、日本の世界での位置づけや評価などを直接知ることが出来て幸せでした。それは甘えや、妥協が決して許されない大変厳しいものであることを改めて認識せざるを得ませんでした。全ての世界の流れに乗り遅れてはならぬこと、それなくして日本の位置づけはないことを知ることです。熊本での世界選手権招致は、今まで何となく誰かがやる「待」の姿勢から、自ら世界に割り込んで行こうとする「詰め」の姿勢に変え、世界の流れに乗り遅れまいとする最良の機会で、これをのがしてはならないと思います。男子の5年、女子の9年ぶりの世界選手権出場の日本、今回も手中に入らなかったオリンピック出場のキップ、それに比べ男女とも大活躍の隣国韓国のチーム、特に女子の世界の王者の位置は単に選手の努力のみで生まれた幸運とは考えられないものが強く感じられます。

日本は5年ぶり9年ぶりということは、それだけ遅れてしまい、差がついたというに過ぎません。日本がアジアや世界で頑張れないのは端に選手やスタッフに問題があるのでなく、日本のハンドボール界全体の問題であると思うのです。我々日本協会執行部はこのあたりを充分認識して、総力をあげて１９９６年にそして１９９７年に向けて努力を積み上げて行きたいと思います。それは財源、指導者づくりやレベルアップ、選手層の増大と魅力ある選手の発掘、多くの人々にこのハンドボールのすばらしさを見てもらう努力、そして世界の人々との連繋、国際性も是非しなければならない重要な事柄と考えております。

ぜひ皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

日本協会だより

12月度常務理事会

12月2日(土)
代々木第2体育館会議室
[出席者] 中沢専務理事ほか8名

◇報告事項

①第47回全日本総合の組み合わせ決定。
②女子世界選手権大会へ山下常務理事を視察員として派遣。
③斉藤英四郎名誉会長祝賀会2月3日実施。
④朝鮮高級学校生の選抜大会出場開放の記事は記者の一方的な考え方で解釈された。平成8年度より選抜大会への出場承認。
⑤スポーツ医科学研究報告書発刊。各都道府県協会へ購入申し込み依頼する。

◇議題

1、
①国体の日本リーグチーム参加問題
　日本リーグチーム等から意見を聞き検討する。また、種別と参加チーム数の見直し検討する。
②小学校指導要領へのハンドボール導入について委員会をつくり検討する。
③コーチ・レフェリーシンポジウム
　平成8年3月、東京で開催。講師ルンド氏。
④97年世界選手権大会に向けて普及用ビデオの制作
　ハイライトビデオを販売の方向で具体的に検討する。
⑤全日本総合大会におけるコンピューター分析による表彰
⑥日本協会インターネット開設について
　早急に対応する。
⑦各種委員会名簿
　モルテンに内容充実に向け要望していく。

2、97年男子世界大会関連について
　プレ大会の名称"ジャパンカップ"で了承。
　熊本PRとしてポスター、はがき、シール、また企業訪問に活用のパンフレット作成。

3、選手強化について
①オルソン氏監督就任の契約について
②女子ジュニアチーム監督に井上亮一氏を承認した。任期は平成8年ジュニア予選出場の場合、本戦まで。

4、クラブ選手権大会について
　ブロック代表者会議を12月16日開催する。

5、社会人大会の名称について
　「ジャパンオープンハンドボールトーナメント」サブタイトル「第○○回国体リハーサル大会」承認

6、第47回全日本総合選手権役員の派遣

7、第4回JOCジュニアオリンピックカップ役員派遣

8、平成8年行事日程並びに事業計画、予算については次回審議する

9、日本協会創立60周年記念行事について
　12月17日常務理事会にて審議

10、平成8年選手登録の早期手続きについて
　登録締切日を大会開始前に選手証を発行するため早める。高校に「選手証」を発行する。

11、プレ大会後の国内巡回ゲーム。

12、タイ・アジア大会への日本協会支援体制について
　対応することとした。

13、全日本男子、全日本女子ジュニアスタッフに感謝状を贈る

14、オルソン氏を囲む会並びに全日本スタッフの労をねぎらう会を催す。

CONTENTS

新年のごあいさつ	会　長　米倉　功	1
新年のごあいさつ	専務理事　中澤重夫	2
日本協会だより		3
第12回女子世界選手権大会		4
世界選手権大会に参加して	樫塚正一	10
全日本男子チーム監督にオルソン氏		11
第47回全日本総合選手権大会〈男子〉		12
第47回全日本総合選手権大会〈女子〉		14
男子38回・女子31回全日本学生選手権		16
立石孝雄副会長　逝去される		18
《指導者の条件》	井上亮一	20
ドイツ研修レポート	東根明人	21
連載9　ミニハンドボール	小西博喜監修	22
審判委員会インフォメーション		26
フリースロー	早川文司	27
《私のチームづくり》	渡辺靖弘	28
96年男子欧州選手権大会出場12ケ国決まる		30
レフェリー・コーチシンポジューム開催		32

韓国が圧勝　初優勝を飾る

日本は決勝トーナメントに進出（13～16位）



優勝した韓国チーム

第12回女子世界選手権大会は、12月5日から17日まで、ハンガリーとオーストリアの2ケ国で開催された。決勝は、地元ハンガリーと韓国の対戦となったが、韓国が後半一気に突き放し、初優勝を飾った。

日本は予選リーグAグループに入り強豪と対戦、緒戦、前回3位のノルウェーに対し前半8－12と健闘したが分厚いノルウェーの攻撃に26－18で敗れ、スウェーデンにも力で押し切られ27－14。つづく12月8日のコートジボアール戦では相手のペースに合わせすぎ18－18の引き分け、オーストリアには前半から全く手が出ず、攻守に圧倒され32－16と敗れる。

クロスマッチゲームではBグループの5位カナダと対戦。前半から速攻、コンビプレーがよく決まりのびのびプレー、全く危うげなく31－22で今大会初勝利、そしてベスト16入り、決勝トーナメントに進出する。

カナダ戦の初勝利で選手もリラックス、余裕が出たのか1／8ファイナル戦ではB組1位ルーマニアと対戦、背が高く、パワー、テクニックのあるルーマニアに前半15－12の大健闘、観客の応援は小柄な日本チームに。

しかし後半の中盤からルーマニアが力を発揮し17－33で敗れる。

つづくスロバキアに勝てば12位以内を確保するため、気力のスタートであったが、これがかえって気負って裏目、スロバキアのテクニックとパワーに翻弄され、またたく間に5～6点差がついてしまう。しかし一戦一戦戦うごとに自信と力をつけてまた日本が猛反撃、前半1点差に追いつく。後半も一進一退を繰り返し攻撃陣のがんばり、GK村山の攻守などで直前まで勝利をものにしながら、肝心なところでのノーマークシュートミス、7mスローの失敗、パスミスが出て結局23－21で敗れる。全く惜しい一戦であった。

決勝トーナメントの進出で次のステップを期待し健闘したものの13－16位になった。

若手が多いチームだけに、実りある経験をした。樫塚監督、コーチ陣も今後経験とパワーを生かし、また日本独自の早いプレーからのコンビプレーを課題として次回の大会での躍進を約束していた。

日本チームの戦いから

予選リーグ

ノルウェー26（12－8 / 14－10）18日本

前半、スタート約10分は日本のペースで展開2－2というロースコアーでリズムをつかみかけた。しかし、ロング陣のシュートがDFの壁、もしくはGKの阻止により逆速攻の機会を与えることになり8－2のリードを許す展開となり、そのままノルウェーのリズムでと思ったがDFの頑張りでリズムを取り戻し、カットイン、速攻で徐々に差を詰めてリズムをつかみかけた。セットの勝負では、前半の日本の積極的なDFが相手のリズムを崩した。

	日本	ノルウェー	
0	村山	レーガンゲル セシリエ	0
0	今野	サークストウーエン トニエ	2
6	石村	グリーニ ヒャシュティ	5
1	谷本	ゴクソル スーサン	3
0	西村	スーレム カーリ	1
0	上出	ダーレ モーナ	8
0	松本	クヴィットサン ヘーゲ	2
1	稲次	ラーション トニエ	2
0	小貫	モルレスタード クリスティーネ	1
5	山川	エリクセン アン カトリーン	0
4	田中美音子	ダーヴィドセン メッテ	2
1	児島	チューダム ヘイデイ	0
18			26

後半は、4点差に詰め寄ったところからのスタートであったが、単発のロングでの逆速攻で2点連続失点となり6点差からのスタートとなったが、再び積極的なDFで自分たちのリズムを取り戻し、中盤以降一進一退をつづけたが、前半のスタート、後半のスタート時の失点が最後まで詰められず8点差で終了。

しかし、残り10分、体力的にダメージが表われつつある場面で全員がよくDF、セットと頑張ってくれた。

スウェーデン27（13－5 / 14－9）14日本

第1戦のノルウェー戦の余力をかってスウェーデン戦に臨んだが、全員気負いがあり、簡単に得点を許しディフェンスでリズムを崩した。

前半、日本は22本のシュートを打つが5得点と確率が悪く、建て直す機会を失う。苦しい場面で状況に応じた対応策が徹底できなかった部分はスタッフの責任である。

後半スタートにあたり、ハーフタイムでのミスに対する指揮に関しても不徹底で、自分たちのミスからの失点を重ねるスタートとなる。

DFでは積極性が表われ、小貫のカットイン、ロング、田中美代子のロングと攻撃面での良い状況が表現できるようになり14－9と後半は大きなプレーヤーに対する対応策も徹底できた気がする。

全体的にスタッフも含め、昨日のノルウェー戦での展開が頭に残り、気負いすぎた試合スタートとなり、最後でリズムを整えることのできた内容は、私たちスタッフの大きな反省材料である。

	日本	スウェーデン	
0	村山	イエンソン クリスティーナ	0
0	今野	フロイール アンナレーナ	0
1	石村	オルソン グニツラ	1
0	谷本	ベニャミンソン ヘジン	0
0	西村	ニルソン カーリン	4
1	上出	Iーソストロム イェッカ	4
2	松本	オルソン リーナ	5
3	小貫	イサネン ツイヤ	2
0	山川	Iーヴルロン イェッカ	0
4	田中美音子	ルンドマルク オーサ	5
2	田中美代子	カールソン ウルッカ	1
1	児島	エーリスソン オーサ	5
14			22

日本18（8－11 / 10－7）18アイボリーコースト

大切な一戦ということで全員で約束事の再確認をし、試合に臨む。

前半、DFの間を強引に割られ失点となる。GK村山1人とCP11名と得点をいかに取るかというメンバーで勝負をかけた。しかし前半8得点というロースコアーでつらい展開となる。

後半はディフェンスで変則1－5、半マンツーと相手のリズムを壊すことが成功し、失点7点でよくDF面で頑張ってくれた。

日本は7mスロー11本を得るが6本落とし、勝ちゲームを自分達で相手にプレゼントした結果となった。

最終戦のオーストリアを残すだけとなったが、コートジボアールとの得失点の競いになるので、最終戦の得点と失点のバランスの取れた戦いが大きな課題となった。

	日本	アイボリーコースト	
0	村山	コドー カロリン	0
0	古田	セリ カテリーヌ	7
2	石村	トラオレ ファンタ	0
5	谷本	ロウルニヨン シドニT	3
0	西村	ファデイカ ナママ	0
1	大林	ココ フィロメヌ	0
0	松本	コネ マリアム	1
0	稲次	ボドウア ロレット	0
3	小貫	マウァ ゾロモウ	1
0	山川	ディオマンデ ベトウマタ	0
5	田中美音子	ゴベ マリーアンジコ	4
2	田中美代子	ソウリ エリザベット	0
18			18

オーストリア 32（17−4、15−12）16 日本

ゲームスタート時より積極性にかけたDF、OFであった。自分達のシュートミスからの逆速攻で相手に楽に得点を与える展開となり、GKも速攻シュートでリズムをつかめぬまま前半を終了。

後半に入り、選手個々に開き直りの気持ちが表われ、攻撃面で個々がフェイント、そして縦への切り込みも出だし、またDFでも身体接触でも退場を気にすることなくアタックできるようになる。そのことで相手にシュートミス、またパスミス等を誘い速攻で得点を重ねる。オーストリアもメンバーを変えることなく最後まで日本の食い下がりに応えてくれた。

スタッフとして、なぜ前半スタートから後半の気持ちが表現できないのかが大きな課題である。カナダとのクロスマッチで13−16決定戦に絶対に進出できるよう頑張りたい。

日本		オーストリア	
0	村山	ジャンジャガ タニヤ	0
0	松尾	スイラス シルビア	2
1	石村	ウア アナマリア	0
4	谷本	イエッツ セドラニカ	3
0	西村	マテット エディ	1
1	上出	ペイスル ニコル	4
0	松本	レフター ソリナ	4
0	稲次	ミカ ビディス	0
3	小貫	フリッツ ラウラ	0
2	山川	モーハアー イリス	7
1	田中美音子	ホフマン ビート	0
4	児島	ツィキーネ オスラ	11
16			32

クロスマッチ

日本 31（15−9、16−13）22 カナダ

前半スタートより速攻でリズムをつかみ相手のリズムを崩す。ディフェンスでも相手のエースPESANT、COTEに的をしぼり、積極的にアタックしてくれたことがGK村山の好キーピングを生み出した。そのディフェンスから速攻と全員がコートを走りまくってくれた。前半のリズムをつかんだもう一つがロング陣の頑張りである。そこで相手GKのリズムを崩すことになった。

後半も前半のリズムを崩すことなく速攻、ロング、セットとよく得点してくれた。失点の22点も合格点である。

この勝利で12月11日にルーマニアと対戦することが決定した。

日本		カナダ	
0	村山	ベノイト カロリン	5
2	石村	ボイビン ドミニック	1
6	谷本	ブローネ ナサリエ	2
1	西村	レメリン ジロリー	1
1	上出	コーラ カロール	3
2	松本	シマード メラニィー	0
0	稲次	コーテ ナハリエ	0
4	小貫	デイッコ デブラ	0
6	山川	ギベアウ マクエイラウチ	0
5	田中美音子	マーテン カロール	3
1	田中美代子	ノエル ベロニクェ	1
3	田島	ベザント ハリエクラウデ	6
31			22

1/8ファイナル

ルーマニア 33（15−12、18−5）17 日本

日本の1−5のアタックディフェンスにルーマニアがとまどい、シュートミスから日本が速攻で得点する。また、セットでも田中美代子、稲次とステップ、ジャンプと連打しリズムをつくる。GKも今野、村山と好キーピングで苦しい場面を助けてくれ、前半はよく足を使った攻守であった。

しかし、後半に入り、ルーマニアの徹底したポスト攻撃でDFの足を止められ、また動きの悪くなった攻撃陣のミスからの速攻で連続失点となり、後半は5−18と完全に体力負けした後半であった。しかし、前半の動きは高く評価できる。

日本		ルーマニア	
0	村山	ペトカ カルメン	
0	今野	コズマ バレンチナ	10
0	吉田	ドラカネスク リディア	4
2	谷本	ツルカ マリアナ	8
1	西村	ポポチロア ミハエラ	1
0	大林	アポストル ミハエラ	0
0	上出	ヨバネスク シモナ	0
1	松本	ギヨルヒ マリネラ	1
4	稲次	ゲオルキコ ロクサナ	0
2	小貫	ラサル ステルツア	6
1	山川	バシレ フロリカ	3
6	田中美代子	ロミコ エリザベトア	0
17			33

9〜16位決勝トーナメント

スロバキア 23（13−12、10−9）21 日本

全員の気持ちが一つになった試合内容であった。立ち上がり、日本のリードでスタートしてリズムをつかむかに見えたが、この大会の課題であったミスの削減がやはりこの試合も表われ、逆速攻で失点を重ねる。でも、DFでそのミスをカバーし前半

日本		スロバキア	
0	村山	ハメルリコヴマ マリアンナ	0
0	松尾	コトリコヴァ ズラディツア	4
2	石村	ラディチョヴァ ルビツァ	1
5	谷本	ブレコボヴァ ズザナ	4
0	上出	スザボウァ ズデンカ	3
0	松本	バロヴァ アネッテ	0
1	稲次	ホラヴァタ ルビツア	1
5	小貫	サバドソヴァ ガブリエラ	0
0	山川	フェツオヴァ マルツェラ	1
4	田中美音子	ベルニソヴァ マルタ	0
2	田中美代子	サラトヴァ アンドレア	9
2	児島	ヴイコヴァ マルツェラ	0
21			23

	12/5 ノルウェー ●26-18	12/6 スウェーデン ●27-14	12/8 コートジボアール ▲18-18	12/10 オーストリア ●32-16	12/11 カナダ ○22-31	12/12 ルーマニア ●33-17	12/14 スロバキア ●23-21	計 181-135	失点25.8 得点19.2
G・K 村山	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 今野	0	0	-	-	-	0	-	0	
〃 松尾	-	-	-	0	-	-	-	0	
C・P 古田	-	-	0	-	-	0	-	0	
〃 石村	6	1	2	1	2	-	2	14	
〃 谷本	1	0	5	4	6	2	5	23	
〃 西村	0	0	0	0	1	1	-	2	
〃 大林	-	-	1	-	-	0	-	1	
〃 上出	0	1	-	1	1	0	0	3	
〃 松本	0	2	0	0	2	1	0	5	
〃 稲次	1	-	0	0	0	4	1	6	
〃 小貫	0	3	3	3	4	2	5	20	
〃 山川	5	0	0	2	6	1	0	14	
〃 田中美音子	4	4	5	1	5	-	4	23	
〃 田中美代子	-	2	2	-	1	6	2	13	
〃 児島	1	1	-	4	3	-	2	11	
	18	14	18	16	31	17	21	135	

の後半、速攻で加点し接戦となる。前半ノータイム、7mをはずし、同点で折り返すことはできなかった。

後半もミスがつづくが、DFでよく頑張り、GK村山の好守もあり一進一退の内容であった。残り3分20対21で7mスローをとるが、これも失敗し同点にすることができなかった。残り2分30秒、よく守り切ったかに見えたが、最後に7mを取られ21—23で終わる。

4本の7mスローのミスが大きな勝敗の鍵であった。

3・4位決定戦

デンマーク 25（14—12 11—12）24 ノルウェー

デンマーク5番の鮮やかなステップシュートでスタート。ノルウェーも真ん中から5番がカットインプレー、クロスコンビプレー、9番のポストで対抗。デンマークは頼みのアーニャが不振でチームも振るわず、ノルウェーの方がポストプレー、カットインとバラエティーある攻撃を見せ、12—11と1点リードで前半終了。

後半8分、ノルウェー13番退場のあとアーニャの7m、得意のランニングシュート、5番の右45度からのステップ、11番から18番へのパスがポストに決まり逆にデンマークが2点をリード。しかしノルウェーもデンマーク7番の退場のあと4番のロングなどで22分には1点差に詰め寄る。しかしここからデンマーク・アーニャがやっと本来の力を発揮23分ジャンプシュート、ランニングシュート、カットインと大活躍、多彩な攻撃で粘るノルウェーを辛うじて25—24で破り3位を確保した。

出足の悪かったデンマークであったが、個人技を生かし、またノルウェーもロング、ポスト、サイド、速攻と見る人を楽しませてくれた。

両チームともセンタープレーヤーが的確な指示とシャープな

	ノルウェー	デンマーク	
0	レーガンゲル セシリエ	ランタシ レーヴェ	0
1	サークストゥーエン トニエ	ソルベルグ リッケ	4
5	グリーニ ヒャシュティ	ポツザウ ティーナ	7
2	スペンドセン ガトリーネ	ホフマン アネッテ	3
6	ゴクソル マーナン	フロールマン マリアーネ	0
0	スーレム カーリ	ゴリング センネ	0
2	ダーレ モーノ	ハマン コニー	0
4	クヴィットサン ヘーゲ	アンデルセン アーニャ	9
4	ラーション トニエ	スヴェセン ギッテ	0
0	スコトボル フネッテ	マトセン ギッテ	0
0	エリクセンアン カトリーン	アストラップ ハイディ	0
0	ダーヴィドセン メッテ	ニールセン メイナリット	2
24			25

動きでチームを引っ張り見応えのあるゲームであった。

決勝戦

韓国25（9－11／16－9）20ハンガリー

超満員のウイナーノイミュタットホールにて韓国、ハンガリーの間で決勝戦が行なわれた。

韓国は前半ハンガリーの粘りのあるプレーに苦しんだが、後半の立ち上がり7mスロー2本、10番オソンオクのロング、そして速攻で一気に逆転。ハンガリーは勝ちを意識しすぎて思い切ったプレーが見られず、辛うじてポストプレーに頼るのみとなった。韓国は中盤も早い動きとバラエティーに富んだ攻撃、守っては早いプレスアタックによりハンガリーに十分プレーさせず、後半21分には21－17と4点リード。残り10分も余裕のあるプレーでハンガリーを突き放し、25－20で世界選手権初優勝を飾った。

	韓国	ハンガリー	
0	文香子（ムンヒャンジャ）	メクス アニコー	0
5	金美心（チムミシム）	エルドーシュ エーヴァ	0
0	具愛京（グエーキョン）	バーグール イルディコー	0
0	漢善姫（ハンソンヒ）	シャーリネー ゴルジェーベト	7
6	林五卿（イムオギョン）	ネーメト ヘルガ	6
0	金　浪（キムラン）	サーントー カタリン	1
5	呉成王（オソンオク）	ファルカシュ アーグネシュ	2
0	洪改浩（ホンジョンホ）	ホフマン ベアータ	0
0	呉英蘭（オヨンラン）	ナジ アニコー	0
4	朴王林（パクジョンリム）	クゥーケニィ ベアトリックス	0
5	金恩美（キムウンミ）	マテフィー マスツ ティアー	3
0	李祥恩（イサンウン）	スジィー イラギィー カタリン	1
25			20


表彰台。中央が初優勝を飾った韓国


韓国対ハンガリーの決勝戦


地元ハンガリーの熱狂的な応援


大会ベスト7に選ばれた選手たち

第12回女子世界選手権大会成績一覧

■予選リーグ

◆グループA

ノルウェー26−18日　本
オーストリア29−13アイボリーコースト
スウェーデン27−14日　本
ノルウェー32−7アイボリーコースト
オーストリア24−22スウェーデン
日　本18−18アイボリーコースト
オーストリア24−23ノルウェー
ノルウェー26−15スウェーデン
スウェーデン26−15アイボリーコースト
オーストリア32−16日　本

［順位］①オーストリア②ノルウェー③スウェーデン④日本⑤アイボリーコースト

◆グループB

ルーマニア27−22スロバキア
デンマーク37−18カナダ
デンマーク26−17スロバキア
チェコ27−11カナダ
ルーマニア25−18チェコ
スロバキア28−18カナダ
ルーマニア29−27デンマーク
デンマーク26−14チェコ
ルーマニア43−14カナダ
スロバキア24−24チェコ

［順位］①ルーマニア②デンマーク③スロバキア④チェコ⑤カナダ

◆グループC

ドイツ30−19アンゴラ
韓　国24−20ロシア
ロシア26−17アンゴラ
ドイツ29−23中　国
韓　国32−18中　国
韓　国34−20アンゴラ
ドイツ18−18ロシア
中　国34−20アンゴラ
ロシア31−15中　国
韓　国24−20ドイツ

［順位］①韓国②ロシア③ドイツ④中国⑤アンゴラ

◆グループD

クロアチア21−15アメリカ
ハンガリー30−23ウクライナ
クロアチア17−16ウクライナ
ハンガリー33−14ブラジル
アメリカ24−19ブラジル
ウクライナ27−16アメリカ
ハンガリー17−15クロアチア
ウクライナ27−17ブラジル
クロアチア25−13ブラジル
ハンガリー30−17アメリカ

［順位］①ハンガリー②クロアチア③ウクライナ④アメリカ⑤ブラジル

■クロスマッチ

日　本31−22カナダ
チェコ24−14アイボリーコースト
中　国30−16ブラジル
アンゴラ24−23アメリカ

■1／8ファイナル

オーストリア21−16チェコ
韓　国27−14アンゴラ
ノルウェー32−21スロバキア
ロシア23−20ウクライナ
デンマーク25−20スウェーデン
ドイツ28−24クロアチア
ルーマニア33−17日　本
ハンガリー21−20中　国

■1／4ファイナル

デンマーク24−23オーストリア
韓　国20−15ドイツ
ノルウェー21−19ルーマニア
ハンガリー23−18ロシア

■9〜16位決勝トーナメント

スウェーデン20−18チェコ
クロアチア24−23アンゴラ
スロバキア23−21日　本
ウクライナ31−30中　国

■準決勝

韓　国33−31デンマーク
ハンガリー22−21ノルウェー

■9〜12位決勝トーナメント

ウクライナ24−19スウェーデン
クロアチア30−28スロバキア

■5〜8位決勝トーナメント

ドイツ20−16オーストリア
ロシア29−28ルーマニア

■11・12位決定戦

スウェーデン26−20スロバキア

■9・10位決定戦

ウクライナ35−32クロアチア

■7・8位決定戦

ルーマニア28−27オーストリア

■5・6位決定戦

ドイツ26−22ロシア

■3・4位決定戦

デンマーク25−24ノルウェー

■決勝

韓　国25−20ハンガリー

［最終順位］

①韓　国
②ハンガリー
③デンマーク
④ノルウェー
⑤ドイツ
⑥ロシア
⑦ルーマニア
⑧オーストリア
⑨ウクライナ
⑩クロアチア
⑪スウェーデン
⑫スロバキア
13〜16位　日本、中国、チェコ、アンゴラ
17〜20位　アイボリーコースト、カナダ、アメリカ、ブラジル

［MVP］

林　五卿（韓国主将）

［得点王］

ナタリア・デレパスコ（ウクライナ）
61得点

［大会ベスト7］

GK　ヤシリア・レガンガー（ノルウェー）
CP　アネッテ・ホフマン（デンマーク）
ナタリア・デリオグビーナ（ロシア）
カタリン・スジラギー（ハンガリー）
林　五卿（韓国）
マリアナ・ティラカ（ルーマニア）
ソロリナ・レフター（オーストリア）

第12回女子世界選手権大会に参加して

世界で学んだ多くのものを今後の糧として

全日本女子チーム監督　樫塚正一

　第12回女子世界選手権大会が去る12月5日～17日の期間、初めてハンガリー、オーストリアの2ケ国で開催された。大会は20ケ国をA～Dの4グループに分けて、A・Bグループがオーストリアで、C・Dグループがハンガリーで試合を行なった。

　大会の予想は、北欧を中心に前回優勝のドイツ、開催地ハンガリー、アジアの雄・韓国がどのように挑むかに注目が集められていた。

　9年ぶりの参加となる日本チームは、5回の国内合宿と2回の海外遠征を積んで大会に臨んだ。前期の練習した課題を7月のデンマーク遠征と国内外国人選抜との対戦を見て調整を行なった。後期の成果を11月20日からの遠征で韓国ナショナルチームとの合同練習でためした。また、引き続いてハンガリー国際に参加して試合の流れ、レフェリーの判定基準、パワーや大きさに対する感覚的な体験をすることが大会に臨むためにできた準備であった。

　世界選手権での技術的な展開では、大きく分けて3つのグループに分けることができたように思う。

　①チーム全体がコンビネーションを組みながらスピードと変化を組み合わせたテクニックを主流とする北欧ハンドボール、②個人技とパワーの強さで押すロシア、ドイツ、オーストリアのパワーハンドボール、③近年、世界のトップであり続ける韓国のワンフェイントとラテラルパスを組み合わせたハンドボールがポイントであったと考えている。

　試合展開と各国の特徴は、攻撃では頭脳的なセンタープレイヤーの組み立てを中心にロングヒッターを持っている。ロングヒッターに合わせてポストシューターと両サイドのテクニックに優れているシューターを配置していることが印象的だった。

　特に印象に残るのは、ロングヒッターのシュートコースの選抜の巧さとサイドシューターの身体の使い方とシュート確率の高さは目を見張るものがあった。速攻では、ロングパスの正確さとドリブルで押す早さが新しい展開の中心となっていた。ミスプレイやシュートミスから繰り出される状況判断の早さと速攻に結びつける判断の的確さは周到であって高い得点源となっている。

　1試合での得点は前回大会より低く、防御の工夫と努力の後を見ることができた。

　防御のシステムでは、バルセロナ・オリンピックで使われた防御システムと高さのラインは見られず、7～8mを中心にコンビプレーとフォローディフェンスの組み合わせがその主流に変わっていた。

　大会に参加できたチームと選手たちは、日本ハンドボール界のためにも多くの技術的なバリエーションの種類はどれくらいが必要か、精神的にタフにあるとはどのようなものかを収穫した。試合では流れに対する読み、判定に対する厳しさ、状況判断ができない状態でのプレイがいかに無駄なものであるか、状況判断の的確と技術選択の正確さは勝敗を左右することも覚えた。さらに具体的な腕や足や身体の使い方の大切さを理解して実感として持ち帰ることができた。

　今後の課題としては、チームと個人が大会で経験した目と頭と身体で覚えた感覚をいつでも、どんな時にも必要な時に使えて技術に生かすことが大切になる。また、この技術を生かす環境を作り出すことも継続できるように努力することも忘れてはならないことである。

　この世界選手権大会に参加するまでの期間、協会をはじめ関係する多くの人達の暖かい援助をいただきました。

　チームや選手たちが精一杯戦うことができたのは、この援助なくして考えられないことであり、心より感謝と御礼を申し上げます。

全日本男子チーム新監督に
オレ・オルソン氏（スウェーデン・47歳） 初の外国人監督起用


オルソン新監督の記者会見

先のアトランタオリンピックアジア予選で4位となり、オリンピックを逃した蒲生前監督のあとを受けて慎重に後任の全日本監督を強化部は検討していたが、2ケ月余の全日本コーチの手腕を買い、起用することになり、12月2日の常務理事会で承認された。ただちにオルソン氏と細かいつめの契約を話し合い合意に達し、12月17日全国に発表した。なお、契約期間は95年12月19日から97年6月1日の男子世界選手権大会終了までとなっている。

オルソン氏は1948年スウェーデン生まれ、ジュニア、ユース、そしてシニアのナショナルプレーヤーとしての実績と1975年から1991年までスウェーデン、デンマークのクラブチームのコーチとして成果を挙げている。柔和な顔、温厚な人柄のなかにも妥協を許さない厳しい面もあり、全日本選手からも指導はわかりやすくかつ具体的であると歓迎されている。

記者会見でオルソン氏は「次の世界大会まで短い時間だが、選手の能力を最大限に引き出したい。強化次第でベスト8も不可能ではない」と力強く抱負を述べた。

全日本女子ジュニア監督に
井上亮一氏（現女子ジュニアコーチ）就任

強化部で検討されていた女子ジュニアのスタッフについて、伊藤監督のあとを受けて井上氏が就任、12月の常務理事会にて承認された。平成8年度には世界ジュニア大会の予選もあり、メンバー選出が急務、任期は予選突破できれば本戦まで。

IHFニュース
（1995年12月14日ウィーンにて記者発表）

★アトランタオリンピック参加国

［女子］韓国、ハンガリー、デンマーク、ノルウェーは世界選手権大会95に4位までに入り資格を得、また大陸の代表としてドイツ（ヨーロッパ）、アンゴラ（アフリカ）、中国（アジア）、アメリカ（米州）に決定。

［男子］フランス、クロアチア、スウェーデン、ドイツ、ロシア、エジプト、スイス、アルジェリア、クウェート、キューバが資格を得ている。あと2ケ国は1996年スペインでのヨーロッパ選手権大会において決定される。

組み合わせは1996年1月14日のストックホルムで決められる。

★1995年世界ハンドボールプレーヤーに（男子）ジャクソン・リチャードソン（フランス）、（女子）エリザベット・コッイシス（ハンガリー）が選ばれた。今回はワールドハンドボールマガジンの読者によって選ばれた。

★1997年世界選手権大会了承される

（男子）日本・1997年5月17日～6月1日

（女子）ドイツ・1997年12月1日～12月5日

（男子ジュニア）トルコ・1997年9月

（女子ジュニア）アイボリーコースト・1997年9月

1999年の世界選手権大会の開催は次の国が申し出ている。

（男子）エジプト、フランス

（女子）オランダ

（男子ジュニア）カタール

（女子ジュニア）なし

1996年7月、IHF理事会で決定される。

★セックスチェックは今後実施せず

世界選手権大会は廃止、しかしながらオリンピックでの参加女子選手はセックスチェックが必要。

★1995年世界選手権大会、男子チャンピオンのフランス、女子チャンピオンの韓国には自動的に次の1997年の世界選手権大会への参加資格が与えられる。

★IHFは1997年からの世界選手権大会では敗者復活は取り止めると決定した。試合スケジュール整理から良い結果が出ると期待している。

★アトランタオリンピックでタイムアウト

1996年アトランタオリンピックで新しいルールを設ける。各チームそれぞれのハーフタイムに1分間のタイムアウトを一度とることが決定。

★IHFメンバーにホンジュラス（137ケ国に）

★1997年デンマーク・ニーボルグにてIHF世界選抜がでてくることになる。ここでは100年前プレーされた。

★IHF、1996年に設立50周年記念祝賀の行事を行なう予定。

★2番目の巡回指導コーチ

IHFは米州に巡回指導コーチ派遣する。派遣先はホンジュラス、ガテマラ、コスタリカ、エルサルバドル。プレーヤー、コーチの指導をする。すでにIHFはアフリカにて巡回指導を行なっている。

第47回全日本総合選手権大会〈男子〉

中村荷役初優勝　昨年の雪辱を果たす

優勝した中村荷役チーム

第47回全日本総合選手権大会男子の部は、12月14日から17日までの4日間、東京体育館に16チームが集まり熱戦を展開した。今大会は、学生チームとしては久しぶりに名城大学がベスト4に進出、健闘が光った。決勝戦は昨年と同様、大同特殊鋼と中村荷役の顔合わせとなったが、中村荷役が昨年の雪辱を果たし、初優勝を飾った。

準決勝

大同特殊鋼 32（15－16／17－12）28 大崎電気

日本リーグ同士の戦い。お互い手の内を知り尽くしているのか慎重な展開となった。大同は林のロング、末岡のカットインで得点を重ね、一方、大崎は魚住のロング、永山のブラインドをついたシュートで得点を重ねた。ゲームは一進一退となり12回の同点を経て、15－16で大崎の1点リードで折り返す。

後半に入りすぐ大同は同点とするが、大崎もすぐさま取り返すといった展開が続いた。後半8分、19－19まで同点となること16回に及んだが、これ以降大同が徐々に差を広げて、残り10分には富本のロングで26－22と4点差を開ける。大崎も踏ん張り、すぐに2点差まで詰め寄るが、末岡、藤井らに連取され32－28で、大同特殊鋼が決勝に進出した。

中村荷役 28（14－13／14－5）18 名城大学

インカレを制し、準々決勝で湧永製薬を破り勢いに乗る名城大学と、昨シーズン日本リーグチャンピオンの中村荷役の対戦となったゲームは、お互いミスの多い雑な展開となった。

ゲームは開始10分、5－5から名城大GK日原が、趙のロング、7ｍスローをはじき、本多、宮城で3連取。一時は、昨日の湧永戦を思わせるムードが漂った。中村も趙、八尾で追いつくが、名城大リードで展開した。前半23分朴のポストシュートで追いつくと、一進一退の展開となったが、前半終了間際趙のカットインで14－13でリードを奪った。後半に入って4分までは一進一退が続いたが、名城大は6分過ぎ、橋田の得点後16分間ノーゴールとなった。この間に趙の4連取を含め、後半20分には25－16と9点差がつき、大勢は決まった。前半、中村荷役・

大同特殊鋼 得点	氏名		番号	大崎電気 番号	氏名		得点
1	佐藤壮一郎		2	1	工藤	竜	0
0	阿萬	隆文	3	2	首藤	信一	6
1	荻本	将勝	5	3	魚住	和彦	4
1	植木	久憲	6	4	大橋	則一	0
6	冨本	栄次	7	8	土屋	幸司	5
5	藤井	孝志	8	9	森本	彰宏	6
9	林	珍錫	9	10	田中	英二	0
5	末岡	政宏	10	11	小野	和正	0
5	柴田	大介	11	12	佐藤	直博	0
0	松本	光則	14	14	永山	強	5
0	五谷	哲朗	16	17	近藤	恒俊	2
32		合計					28

名城大学 得点	氏名		番号	中村荷役 番号	氏名		得点
0	日原	一幸	1	1	林田	庄司	0
4	後籐	康之	2	2	木浪	達文	3
3	橋田	道洋	3	3	西村	英士	0
0	土本	昭仁	5	5	朴	英大	1
2	西村	耕二	6	6	泉	光介	0
1	佐伯	充善	7	7	八尾	泰寛	4
0	西川	清紀	9	8	斉藤	和明	4
3	宮城	徳隆	11	9	高木	浩司	2
0	阿部	文雄	12	11	呉	龍基	2
5	本多	智幸	14	12	井上	耕一	0
0	北出	圭祐	15	13	趙	範衍	11
0	飯田	洋	16	14	林	一則	1
18		合計					28

第47回全日本総合選手権大会〈男子の部〉

12/14(木) 12/15(金) 12/16(土) 12/17(日)

日程	対戦	スコア
12/14(木)	大同特殊鋼 − トヨタ車体	31 − 19
12/14(木)	三陽商会 − 日本体育大学	25 − 21
12/14(木)	大崎電気 − 本田技研熊本	42 − 16
12/14(木)	ふくしまクラブ − 日新製鋼	20 − 39
12/14(木)	湧永製薬 − 日本電装	35 − 18
12/14(木)	トヨタ自動車 − 名城大学	22 − 30
12/14(木)	香川教員 − 本田技研	24 − 19
12/14(木)	国士舘大学 − 中村荷役	14 − 35
12/15(金)	大同特殊鋼 − 三陽商会	22 − 18
12/15(金)	大崎電気 − 日新製鋼	25 − 24
12/15(金)	湧永製薬 − 名城大学	20 − 22
12/15(金)	香川教員 − 中村荷役	23 − 29
12/16(土)	大同特殊鋼 − 大崎電気	32 − 28
12/16(土)	名城大学 − 中村荷役	18 − 28
12/17(日)	大同特殊鋼 − 中村荷役	19 − 26

井上、名城大・日原、両GKの好守がゲームを大いに盛り上げた。また、ここまで来た名城大学の健闘を讃えたい。


木浪選手のシュート

決勝

中村荷役26（12−6 14−13）19大同特殊鋼

昨年の決勝と同じカードとなった。中村荷役は昨年、1点差で惜しい負け方をしているので何としても雪辱を果たしたいところである。中村は、カットイン、ポスト、サイドに趙のロングと多彩に攻め、着実に得点を重ねた。一方、大同は中村のディフェンスを割れず、しかも、前日9得点を上げた林は前半ノーゴールと完全に押え込まれた。前半15分に末岡が7mスローを決めた後は、27分までミスとディフェンスラインの外からのシュートばかりでノーゴールの拙攻を繰り返した。24分過ぎボールはサイドに回るが、GK井上の好守に会い、得点を奪うことができなかった。この間も中村は着実に攻め、八尾、呉、趙で得点を重ね、12−6で前半を終了した。

後半に入り大同はサイド、ポストへとボールを回してくるが、GK井上の好守と、自らのミスで得点を思うようには伸ばすことができない。中村もミスが目立ち、7点差、8点差が後半19分まで続いた。この19分には大同のミスから速攻で、このゲーム最大の9点差となった。大同は、ポストの藤井、サイド柴田の逆スピンシュートで踏ん張るが、中村、趙の残り10分からの5得点すべてを上げるという活躍で、26−19と予想を上回る大差で、昨年の雪辱を果たした。



大同特殊鋼 得点	氏名	番号	中村荷役 番号	氏名	得点
0	佐藤壮一郎	2	1	林田 庄司	0
0	阿萬 隆文	3	2	木浪 達文	2
1	荻本 将勝	5	3	西村 英士	0
0	植木 寿憲	6	5	朴 英大	2
3	冨本 栄次	7	6	泉 光介	0
2	藤井 孝志	8	7	八尾 泰寛	4
3	林 珍錫	9	8	斉藤 和明	1
6	末岡 政広	10	9	高木 浩司	1
4	柴田 大介	11	11	呉 龍基	5
0	林 康一	12	12	井上 耕一	0
0	松本 光則	14	13	趙 範衍	11
0	五谷 哲郎	16	14	林 一則	0
19			合計		26

第47回全日本総合選手権大会 〈女子〉

オムロンが2連覇を飾る

第47回全日本総合選手権大会女子の部は、12月21～24日まで16チームが参加して、兵庫県神戸市運動公園「グリーンアリーナ神戸」にて行なわれたが、オムロンが前半立ち上がり苦しんだものの後半の立ち上がり猛攻で一気に7得点を挙げリード、その後もGK王の好守、持ち味の脚力から速攻も決まり、粘る大崎の反撃を封じて2連覇を飾った。オムロンの優勝は6度目となる。



2連覇を飾ったオムロンチーム

準決勝

オムロン26（16−4 / 10−4）8 シャトレーゼ

前半からオムロンの猛攻とシャトレーゼの思わぬ不振で16−4と大差で前半を終了。

後半オムロンも気のゆるみからかシュートミスなどもあり13分間で1点。両チーム20分まで3−4という凡戦。シャトレーゼは故障者続出、小松のロングに頼るのみ、オムロンも終盤ようやく速攻、ポスト、ロングで加点して26−8で順当に決勝に駒を進めた。

大崎電気28（17−13 / 11−13）26 日立栃木

立ち上がり両チームとも持ち味を発揮し9分まで3−3、その後も日立・松本のカットイン、速攻、大崎も尹のフリースロー、白のロングで激しい攻防、26分には白、千葉、北村の3連続で17−13で大崎リードで前半終了。

後半、日立は12分シュートカットから中山の速攻、桐谷のゲット21−22と1点差に詰め寄り息づまる熱戦、17分には中山のカットインプレーでついに同点。両GKがことごとくノーマークを防ぐなど好守を見せる。

23分、広瀬の速攻、日立の不正交代により5人防御をついて北村がサイドからゲット、尹のロングが右コーナーに決まり、残り日立は2点を返したが時遅く、大崎が逃げきった。

決勝

オムロン34（14−14 / 20−14）28 大崎電気

2連覇をねらうオムロン、6年ぶりの優勝に一戦一戦調子を上げてきた大崎電気の対戦は序盤全くの大崎のペース、白の連続得点5点を含み前半16分で10−5と大崎リード。

オムロンはなかなか大崎の防御を攻め切れず苦戦。このままズルズルいくようなムードの

オムロン			シャトレーゼ		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	城下 雅美	1	1	村山みどり	0
0	吉田 早苗	2	2	小松 晃子	3
4	田村 啓子	3	4	李 京姫	1
7	浜田かおり	4	5	熊谷 祐子	1
0	古田 千明	6	6	道端 希	1
8	田中 里美	7	8	小林喜代子	0
2	高橋さおり	8	9	合田 陽子	1
0	西村 聖子	9	11	加籐由紀子	0
0	鶴田 京子	10	12	為近実花子	0
2	川崎 裕美	14	14	佐藤 絹子	1
0	王 涛	16	15	奈良 美鈴	0
3	張 弘	20	17	菅谷 淳子	0
26		合計			8

日立栃木			大崎電気		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	坂本 和美	1	1	今野 清美	0
3	伊佐野実保	3	2	川村 純子	0
4	桐谷 律子	4	5	佐々木愛	0
1	小柏智恵子	6	6	広瀬喜代香	3
1	呉 欣	7	8	山口 華子	2
0	嶋野 幸子	8	9	船津芽生子	0
6	松本 恵美	10	10	白 仁淑	11
0	板谷 貴子	13	11	北村 涼子	5
5	中山 朋美	14	13	尹 乗順	4
5	沖土居真子	15	16	金丸 涼子	0
1	王 瑋	17	17	千葉 由佳	2
0	藤井 裕子	12	18	結城 香織	1
26		合計			28

オムロン			大崎電気		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	城下 雅美	1	1	今野 清美	0
0	吉田 早苗	2	2	川村 純子	0
5	田村 啓子	3	5	佐々木 愛	0
0	浜田かおり	4	6	広瀬喜代香	2
8	古田 千明	6	8	山口 華子	2
6	田中 里美	7	9	船津芽生子	0
6	高橋さおり	8	10	白 仁淑	13
0	西村 聖子	9	11	北村 涼子	5
0	鶴田 京子	10	13	尹 乗順	3
2	川崎 裕美	14	16	金丸 涼子	0
0	王 涛	16	17	千葉 由佳	2
7	張 弘	20	18	結城 香織	1
34		合計			28

なか、今大会ずっとベンチをあたためていた古田の投入から角度のないサイドから見事にゲット。これで勇気づけられたオムロンは、川崎、田村、古田の3連続速攻でなんと3分間で5点を連取、21分に10—10の同点に追いつく。その後、両チームとも落ち着きを取り戻し大崎は尹、白らで反撃、オムロンもようやくエンジンがかかり14—14で前半を折り返す。

後半ももつれるかに見られたが2分から11分の間にオムロンの信じられぬ猛攻、9点連取出一気に25—15と10点差。大崎ベンチ、選手とも放心状態で完全にオムロンペース。

頼みの白もマンツーマンで大崎動きが取れず、尹のロング、ポストへのパスもオムロンの防御で突破できず、シュートのはねかえりもこういう時はえてしてオムロンの側に、高橋、田中、古田、ポストの張の活躍、そしてGK王の堅実な守備で昨年に引き続き優勝を飾った。34—28のスコアが示すとおり、激しい点の取り合いのゲーム内容であった。

第47回全日本総合選手権大会〈女子の部〉

12/21(木) 12/22(金) 12/23(土) 12/24(日)

回戦	対戦	スコア
12/21	オムロン — 福岡大学	30—15
12/21	ムネカタ — 大和銀行	21—36
12/21	東京女子体育大学 — ソニー国分	33—22
12/21	ジャスコ — シャトレーゼ	24—28
12/21	北国銀行 — ブラザー工業	31—18
12/21	武庫川女子大学 — 日立栃木	16—23
12/21	神奈川教員Gabbiano — イズミ	23—31
12/21	日本体育大学 — 大崎電気	25—27
12/22	オムロン — 大和銀行	31—25
12/22	東京女子体育大学 — シャトレーゼ	20—27
12/22	北国銀行 — 日立栃木	20—24
12/22	イズミ — 大崎電気	27—34
12/23	オムロン — シャトレーゼ	26—8
12/23	日立栃木 — 大崎電気	26—28
12/24	オムロン — 大崎電気	34—28

話題から

谷本泉選手は全日本プレーヤーとして、今回の世界選手権の12月10日対オーストリア戦で公式国際試合50回を達成した。その記念の表彰が全日本総合選手権で日本協会より行なわれた。

＊　＊　＊　＊

今大会のMVPには　オムロンのGK王　涛（ワンタオ）選手が選ばれた。王選手は身長183cm、29歳、北京体育技術学院出身。

＊　＊　＊　＊

全日本教職員連盟から推薦されて出場した神奈川教員が大会終了後、兵庫県ハンドボール協会大原理事長に震災に遭われた人に役立ててほしいと義援金を届けた。教員チームは車で分乗して神奈川から神戸に来て、テレビ等で見ていた大震災の跡を見て、これほどひどいとはと絶句、このような状況の中でハンドボールを続けている人に感動し、車で来て旅費の浮いた分から三辻監督、小暮主将以下全員で義援金を出し合い届けたもの。大原理事長も感激、12月27日からJOCオリンピックに出場する兵庫県代表チームに手渡した。


MVPの王涛選手


谷本泉選手

男子第38回・女子第31回全日本学生選手権大会

男子は名城大学が初優勝、東海学連に初の優勝旗
女子は東京女子体育大学が3年連続、通算12回目の優勝

平成7年度全日本学生選手権大会は、11月14日より19日まで仙台市体育館において、予選トーナメント・準決勝リーグ・順位決定戦方式で行なわれ、男子は名城大が東海勢として初めて決勝戦にコマを進めただけでなく、過去、関東・関西両学連に独占されていた覇権を、東海学連に初めて持ち帰った。女子は東京女子体育大学が3年連続・通算12回目の優勝を飾った。

男子

男子は、戦前の予想では、東西学生選手権大会で圧倒的な強さを見せて優勝した日体大、大体大が優勝候補に挙げられていたが、秋季リーグで日体大が国士舘大に敗れ、大体大が大経大に引き分けるなどして、大会が近づくにつれ混線模様を呈してきた。

仙台大会は荒れるとのジンクス通り、予選トーナメントから波乱含みのスタートとなり注目された。中央大－中部大、国武大－中京大、名城大－筑波大、国士館－大体大は共に接戦となって、中部大、中京大、筑波大、大体大などの有力大学が姿を消した。特に、名城大－筑波大は、前半の展開では筑波大の楽勝と思われたが、後半8分から5分間無得点と、14分14秒、同19秒と立て続けに退場者を出して、その前の退場者を合わせて30秒間コートに3名という筑波大を一挙に追い上げた名城大、延長戦と思われた20秒前に西（久工大附）の執念のゴールで国士館がそれぞれ勝ち上がった。

準決勝第1ゾーンは、日体大が3試合とも危なげなく勝ち進んだが、3位決定戦進出をめぐって順天堂、福岡大、中央大が1勝1敗となり、得失点差で福岡大が進出した。第2ゾーンは、筑波大戦で逆転勝ちをした名城大が、一戦ごとにパワーアップといった感じで勢いに乗り、国武大・大体大を破った国士館、阿部（多摩高）の好リードで上位進出をねらう早稲田の関東勢を圧倒して、東海勢としては初めて決勝戦に駒を進めた。なお、3位決定戦へは、国武大と辛うじて引き分けた国士館が進出した。

3位決定戦は、国士館が後半27分37秒経過後の西のミドルが決まり、福岡大との接戦に終止符を打ち、3位となって全日本総合選手権大会のキップを手にした。

決勝戦は、勢いに乗る名城大が、開始早々40秒に佐伯（小松明峰）のミドルが決まり先行、日体大も荒尾（北陸）で返したが、その後は後藤（名南工）、橋田（寺井）、西村（桜台）、本多（岡崎城西）、飯田（桜台）、宮城（興南）が、サイド、ポスト、カットイン、ミドルと、多彩にコンスタントに加点して、日体大に大差をつけて前半を折り返した。

後半に入っても勢いは止まらず、一時は13点差まで開いた。6分過ぎからの日体大・荒尾の速攻、茅場（笠間）のミドル、森山（熊本市商）のカットインやクイックなどの攻撃を日原（桜台）の好守でかわし、初優勝を飾り、大会史上初めて東海学連に優勝旗を持ち帰った。

▼予選トーナメント1回戦

仙台大 33－20 福岡教大
順天堂大 37－21 愛知大
中部大 32－31 函館大
日本大 33－16 近畿大
筑波大 28－20 東和大
中京大 37－21 北海道大
立命館大 30－22 金沢工大
国士館大 34－27 広島経大

▼決勝トーナメント2回戦

日体大 38－20 仙台大
順天堂大 39－22 大阪経大
中央大 32－30 中部大
福岡大 31－4 日本大
国際武大 35－25 中京大
名城大 27－25 筑波大
早稲田大 33－17 立命館大
国士館大 22－21 大阪経大

▼準決勝リーグ第1ゾーン

日体大 30－23 順天堂大
中央大 27－26 福岡大
日体大 25－18 中央大
福岡大 22－17 順天堂大

日体大27―19福岡大
順天堂大25―22中央大

▼準決勝リーグ第2ゾーン

名城大26―23国際武大
国士館大29―28早稲田大
早稲田大32―15国際武大
名城大29―23国士館大
名城大31―21早稲田大
国士館大28―28国際武大

▼3位決定戦

国士館大21（12―10, 9―10）20福岡大

▼決勝

名城大31（18―8, 13―17）25日体大

名城大						日体大	
得点	名前	番号	位置	番号	名前	得点	
0	日原	1	GK	1	黒川	0	
0	阿部	12	GK	12	道本	0	
9	後藤	2	CP	2	辻	3	
3	橋田	3	CP	3	奥秋	1	
0	士本	5	CP	4	笹波	0	
7	西村	6	CP	5	茅場	7	
1	佐伯	7	CP	6	平井	2	
0	西川	9	CP	7	藤井	1	
5	宮城	13	CP	9	荒尾	5	
3	本多	15	CP	10	森山	5	
1	北出	17	CP	18	田中	1	
2	飯田	20	CP	19	谷口	0	
31			合計			25	

▼優秀選手

日原　一幸（名城大）
後藤　康之（名城大）
西村　耕二（名城大）
辻　昇一（日体大）
茅場　清（日体大）
西　剛志（国士館大）
木村　和幸（福岡大）

女子

女子は、予選トーナメントから優勝候補同士の大体大―筑波大の激突が注目されたが、辻（洛南）、玉野（山陽女子）などが走り、全日本選手の稲次（宣真）を軸に攻める筑波大を突き放し、準決勝リーグに進出した。その他のシード大学は順当に勝ち上がった。

準決勝リーグは、ここ5年、実力接近で好ゲームが展開されているが、第1ゾーンは、東女体大が福岡大に苦戦を強いられたが、大体大、中京女大を破り勝ち上がった。

第2ゾーンは、武庫川女大が、杉浦（添上）、琴野（華陵）の活躍で安定した試合運びを見せて勝ち上がった。

3位決定戦は、GK安田（郡山女）の好守と小貫（麻生）、田口（松橋）等の活躍で日体大が勝った。

優勝決定戦は、前半、東女体大が左腕・山口（栃木女子）のミドル・梶山（名短大附）のカットイン、武庫川女大の琴野のロング、森田（文大杉並）で連続得点し5点差としてから、要所要所で児島（名短大附）・梶田が決めて、常に先手を取った東女体大が3年連続12回目の優勝を飾った。

大会を振り返ってみて、男子はGK日原（全日本学生代表）を除いて、特にスターはいないが、全員参加の多彩でどこからでも得点できる攻撃と、相手攻撃をよく研究したディフェンスが強く印象に残るゲームであった。

また、女子は東女体大の早いパスワークから一瞬の好機をつく点と個人技がマッチした攻撃力が、栄冠を手中にしたと思われる。

▼予選トーナメント

大体大30―21筑波大
中京女大51―8北教大
東女体大44―14広島大
日体大18―15中京大
福岡大29―25日女体大
福岡教大44―16金沢大
茨城大31―16九州女短大
武庫川女大31―21東北福祉大

▼準決勝リーグ第1ゾーン

大体大21―20中教女大
東女体大25―24福岡大
福岡大31―26中京女大
東女体大31―21大体大
東女体大32―20中京女大
福岡大31―22大体大

▼準決勝リーグ第2ゾーン

日体大30―27福岡教大
武庫川女大25―12茨城大
日体大26―10茨城大
武庫川女大28―24福岡教大
茨城大21―20福岡教大
武庫川女大27―17日体大

▼3位決定戦

日体大27（16―14, 11―10）24福岡大

▼決勝

東女体大23（11―10, 12―10）20武庫川女大

東女体大						武庫川女大	
得点	名前	番号	位置	番号	名前	得点	
0	遠藤	1	GK	1	内山	0	
0	伊藤	12	GK	12	中井	0	
1	神津	2	CP	2	琴野	6	
0	石垣	3	CP	3	赤嶺	3	
0	鈴木	5	CP	4	三輪田	3	
2	青戸	6	CP	5	森田	3	
7	梶山	8	CP	6	新村	3	
0	多々良	9	CP	7	杉原	2	
4	児島	17	CP	10	松本	0	
3	小島	18	CP	11	福川	0	
6	山口	19	CP	14	橋詰	0	
0	板谷	20	CP	15	藤田	0	
23			合計			20	

▼優秀選手

遠藤ひろみ（東女体大）
神津　奈美（東女体大）
梶田　華恵（東女体大）
琴野　由子（武庫川女大）
杉原　奈々（武庫川女大）
小貫佳代子（日体大）
比嘉　晴美（福岡大）

㈶日本ハンドボール協会

立石孝雄副会長 逝去される



立石孝雄副会長（オムロン㈱代表取締役会長）は、昨年11月22日、急性心不全のため逝去されました。

立石副会長は1989年から㈶日本ハンドボール協会の副会長として前斉藤英四郎会長を支え、また、現米倉会長と一緒になって97年の男子世界選手権大会の招致から大会成功へ多大なる貢献をされてこられました。そして特別委員会の企画・広報委員長としても積極的にオーナー会議にもご出席いただき、会を引っ張っていただきました。これからというときだけに全く残念です。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

なお、社葬が12月22日、京都妙覚寺にて執り行われ、多くの方々が参列しました。

指導（CCM）委員会だより

公認スポーツ指導者表彰される

この度、日本体育協会より公認スポーツ指導者の表彰が行われました。この表彰制度は平成7年度より実施され、今年度は第1回の表彰となります。ハンドボール競技関係者としては、藤田信義氏が都道府県体育協会より、石井喜八氏、太田利彦氏が日本体育協会より推薦され表彰されました。

この制度は今年度より発足した制度でもあり、その概要を記しておきます。

1、趣旨

永年にわたり公認スポーツ指導者として、スポーツの指導育成及び組織化、競技力の向上、公認スポーツ指導者制度の発展その他国民スポーツの発展に貢献した者のうち、特に顕著な功績があった者を表し、その功に報いるとともに、今後における公認スポーツ指導者制度の一層の発展に資する。

2、表彰の基準について

表彰者は、各都道府県体育協会、日本体育協会、各競技団体から推薦され、以下の功績が認められた方となっております。

〈都道府県体育協会推薦〉

公認スポーツ指導者として、資格取得後15年以上にわたりスポーツの指導育成及び組織化等に尽力し、顕著な功績が認められた方。

今回は総数114名の方が表彰されておりますが、ハンドボール関係者として山口県より藤田氏が表彰されております。

〈日本体育協会推薦〉

公認スポーツ指導者制度の確立及び発展のために貢献し、顕著な功績があるとして日本体育協会が特に認めた方。

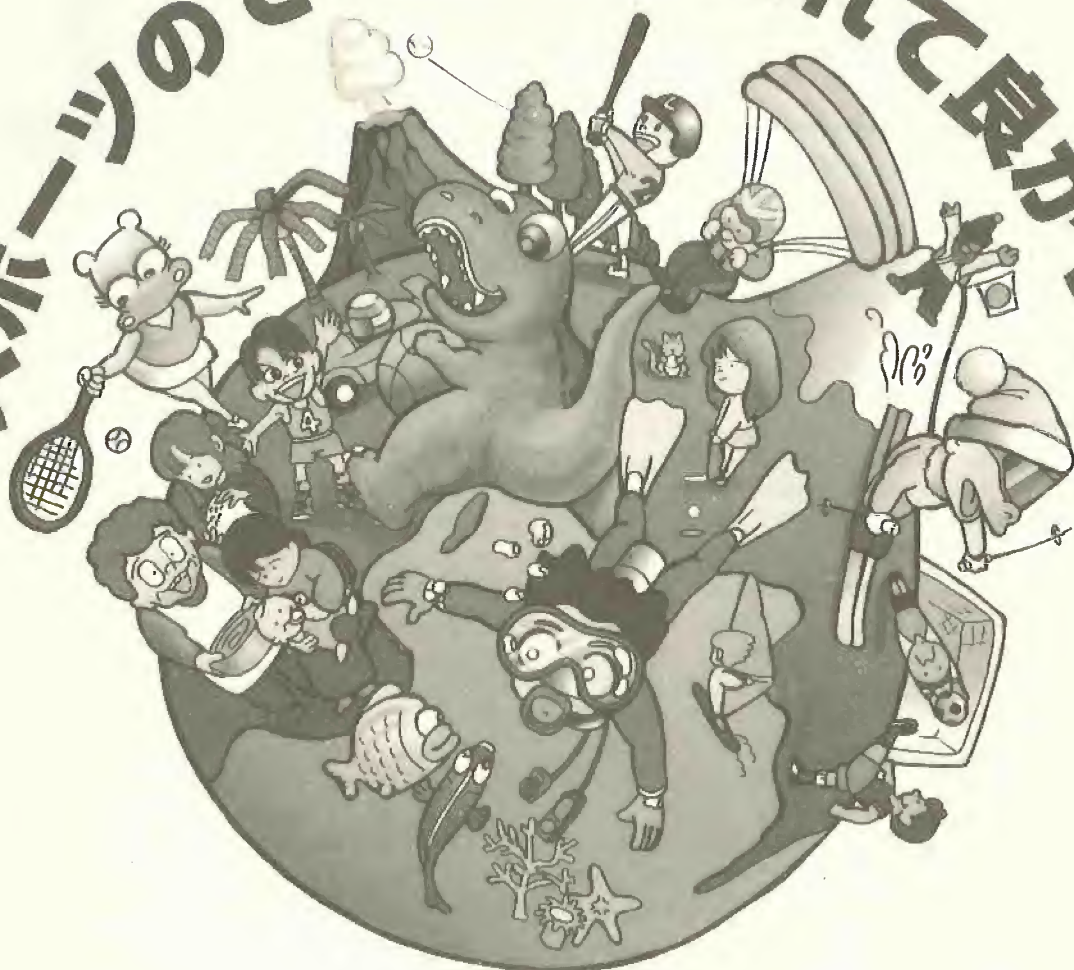
総数22名が表彰され、ハンドボール関係者として、石井氏と太田氏が表彰されています。

〈競技団体推薦〉

公認スポーツ指導者として、競技力の向上に尽力し、前年度に開催されたオリンピック競技大会、アジア競技大会又はこれに準ずる国際大会において、優秀な成績を上げた選手を育成指導された方。

総数18名が表彰されておりますが、残念ながらハンドボール競技には該当者がおりませんでした。

受賞された3名の方々に対し、お喜びを申し上げるとともに、今後益々のご活躍をお祈り致します。



スポーツ安全保険はスポーツ・文化・ボランティア団体のための保険です。

※5人以上のグループで御加入ください。

区分	掛金	傷害保険(保険金額)			賠償責任保険(補償限度額)	共済見舞金
		死亡・後遺障害	入院	通院		
子供の スポーツ 成人の 文化活動 ボランティア活動	400円	最高 2,000万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故5億円 (免責1,000円) 財物賠償 500万円 (免責1,000円)	突然死および日射病・熱射病による死亡 140万円
老人の スポーツ	600円	500万円	1,800円	1,000円		
成人の スポーツ	1,300円	2,000万円	4,000円	1,500円		

●注：他に学生連盟・実業団連盟に所属する団体や特殊スポーツ団体の加入も扱っています。

対象となる事故

- ●グループ活動中の事故
- ●往復途中の事故

保険期間

平成8年4月1日から
翌年3月31日まで(申込受付は3月から)

── 加入用紙、資料請求、お問い合わせ ──
〒150-50 渋谷区神南1丁目1番1号 岸記念体育会館 ☎03(3481)2431
財団法人 スポーツ安全協会

新企画

指導者の条件

5つの指導方針のもとに

夙川学院高校監督　井上　亮一



全国の高校界には優秀な指導者が沢山おられますが、その多くの指導者の皆さんは独特の雰囲気を持ち、一種のカリスマ性を備えている人が多い。各大会においては結果を求め選手とベンチが一体となっているゲーム展開を見るにつれ、厳しい練習の中に指導者と選手との信頼関係が備わっているのを感じます。それが私の理想の姿かもしれません。私が指導者として昭和45年以来、26年間夙川学院高等学校の監督としてやってまいりましたが、最初の5年間くらいは若さに任せて、自分自身何の指導方針もないままガムシャラにやらせました。しかし一向に成績が向上せず、その時は指導能力がないのではないかとスランプ状態に陥った時があります。しかしある人との出会いによって、私にしっかりした指導方針を持つようアドバイスを与えていただきました。それ以来、次の5つの項目を自分自身の指導方針として、選手たちと共に練習を行い少しずつ成果が表れてきました。

人との交わりを大切にすること

前にも述べたように、私が指導者としての方向を導いていただいた、人との出会いによって今日の私があるように、多くの人達との出会いを大切にし、多くの指導者のハンドボールに対する理論を拝聴し、自分自身のハンドボールに取り入れていった経緯があります。若い時に持っていた、自分だけはというガムシャラな精神状態を変えることのできる人物に巡り合えたことによりその大切さをハンドボールの指導の精神面の中に取り入れています。

選手の性質を見抜くこと

人間相手の仕事ほど難しいことはないと今でもつくづく思います。その中で14、5才の子どもが大きな希望を持ち入学してきた時、選手一人一人の性格・性質などを観察しそして見抜いていくことの大切さ（特に女子は重要課題、でも見抜けないことが多くある）を経験の中から発見する。人は十人十色の性格を持ち、生活環境によって性質も違ってきます。その子どもたちの心理状態を掴むことによって（会話・スキンシップ等）、そこそこの選手でも超一流は無理でも、一流選手になれることがある。しかし私たちがそう思っても選手が笛吹けど踊らずではとても無理な話である。しかし人間とはすばらしい動物であり万物の霊長といわれ、やろうとする姿勢が高ければ高いほど、目に見えて技術は向上する。しかし神様の心ははかないもので限界という二文字を私たちに与えています。これが超一流選手になれないところではないでしょうか。超一流選手一人のチームより自分で育てた３～４人の一流選手のチームの楽しくはありませんか。

妥協しないこと

自分自身の生活において、また、選手の生活環境・精神状態・人間関係などさまざまな出来事が、たった３年間の高校生活の中に凝縮してあります。そのような数々の障害にもハンドボールの指導においては、自分自身のハンドボール信念を貫き通そうとする姿勢を崩さないこと。

基本の繰り返しを忘れぬこと

現在では高校生の大会も多くなり、指導者たちは（私も含め）すぐに技術面に走る傾向があります。しかし基本練習なくして応用練習が出来るわけがないと、常々思っていてもなかなか手をつけることができない。基本練習は単調で面白くない練習が多い。しかし基本が解ってくれば本当に面白く楽しい競技のはずです。素晴らしい素質を持った選手が多く集まってもハンドボールの基本がわからずでは宝の持ち腐れになる可能性が高く、ディフェンスの基本・パス基本・シュート基本・速攻基本等、基本をしっかりと行うことによってハンドボール理論が選手の中に確立されてくる。それによってハンドボールの楽しさ、面白さを植えつけることができる。

闘争心を常に忘れぬこと

自分の与えられた性分は死ぬまで変えることは出来ません。選手は迷惑かもしれませんが練習においては選手との間で私と勝負をし、試合においては対戦相手と勝負をし、時には？選手のためにレフェリー相手に睨みをきかすことをしたり、喜怒哀楽を前面に出しながら闘争心もむき出しに練習や試合に真剣に生徒たちと接しハンドボールに取り組む。(やりすぎで失敗したこと多々あり…反省)

このような事がらを大切にしながら現在も指導をやっていますが、成功した例の方が少なく苦労したことの方が多く、難しさをひしひしと感じる毎日です。しかし成功した時の喜び・失敗した時の悔しさ、その時代、時代の選手たちとの喜び・悲しみ・悔しさを分かち合えることは、指導者しか味わえない何とも言えない満足感である。しかし私たちはハンドボールの技術面だけの指導でなく精神面での強化が私に与えられた役目であることも忘れてはならない。

［戦績］国民体育大会：優勝２回、全国選抜大会：優勝１回・準優勝１回・３位２回、インターハイ：準優勝３回・３位３回

★ドイツ研修レポート③★

順天堂大学ハンドボール部監督　東根明人

異種スポーツ間における技術についての共通認識

トレーニングについては前回も少々触れましたが、引き続き研修先における主な内容をご紹介したいと思います。(VfB Leipzig を中心に)

まずはじめに、ゴールキーパー・ドリルが、質・量共に豊富であるということです。キーピングは勿論、スローイング、ポジショニング、ディフェンスのコンビネーションそしてサーキットトレーニングを中心としたフイットネストレーニングなど、ゴールキーパーとして要求される技術や動作といったものを実に合理的に行います。ここで重要なことは、ゲーム結果に基づいてその内容が決定される、ということです。すなわち、指導者はゲーム中に現れたプレーを分析し、次回のゲームに向け、何をどれだけ実施するかを決めなければなりません。そこには"あくまで事実に基づいて"ということがコンセプトとしてあるのです。したがって、分析結果のフィードバック（評価）は、指導者として要求される能力のひとつであるといえます。こういった分析はゴールキーパーだけでなく、全てのトレーニングプランの作成に共通していることは、言うまでもありません。

次に興味をおぼえることは、フローター陣とエリアプレーヤー陣に分かれてコンビネーショントレーニングを行うということです。ブンデスリガは各チーム15名前後で編成されています。各ポジション2名というのが、チーム構成の基本であるといいます。私たちの感覚では少ないような気がしますが、1・5時間という練習時間を考えるとこのような分業で行うトレーニング形態はなかなかおもしろいのではないでしょうか。当然それほど長くは行いませんが、その日のテーマに沿ってスピーディーに実施されます。

また、"走る"トレーニングをかなり行います。目的として体力アップはさることながら、速攻による攻撃力アップを掲げています。男子にも共通して言えることなのですが、速攻による得点シーンは予想以上にあります。パワーや体格だけでなく、スピードやテクニックも兼ね備えた!?ハンドボールを目指していると言います。いずれにせよ日々刻々と進歩している、技術、戦術に対しても競い合っているのです。

ところで、Leipzig 大学でスポーツの分類に関する情報をひとつ。

異なるスポーツであったとしても、運動内容の共通性を基準にして分類しているのです。このようにすることにより、各スポーツ間に技術の共通認識が生まれ、相互のトレーニング効果を有効に活用しようというものです。(企業等における、異業種間交流とでも言うのでしょうか)

①持久系スポーツ…水泳・自転車・陸上（長距離）・スキー（距離）・ボートなど
②瞬発系スポーツ…陸上（短距離、跳躍、投てき）・スキー（ジャンプ）・重量挙げ・ボブスレー・リュージュなど
③格闘系スポーツ…柔道・レスリング・ボクシング・フェンシングなど
④技術系スポーツ…体操・フィギュアスケート・飛び込みなど
⑤ボールスポーツ…ハンドボール・サッカー・バレーボールなど

といった具合です。③、⑤以外は、予想外の組み合わせです。様々な論議がなされ、膨大な量のデータが集められ、その結果勝利を収めるための、最も合理的な方法論が生み出されて行くと言います。一つの分野に留まらず、交流を積極的に行う組織の中で、スポーツ科学が見事に現場へ生かされている様子が、手に取るように伝わってきます。

最後にドイツ語学校について

私のクラスは14名ですが、イタリア、エジプト、インド、ケニア、アンゴラ、ベトナムと世界各国、様々な人種が集まっています。月曜日から金曜日まで8：15～9：45、10：00～11：30、11：45～13：15の時間帯で授業があります。このクラスに2月下旬まで在籍し、試験に合格したならば次のコースも3ヶ月間受講する予定でいます。ハンドボールとはまったく縁のない人たちですが、それぞれの国の様子や習慣などを話したりとこれもまた貴重な勉強になっています。

言葉を理解することにより、もう少し具体的にコミュニケーションが計られるようになります。まだまだ身振り、手振りの状態ですが、じっくりと身につけようと思っています。

連載9

ミニハンドボール

ボール・アーカード／エリック・スコーガード共著　小西博喜監修

5　試合

●概説

まずは子供達は、他の何よりも、ゲームを楽しむということが優先し、広く経験することが必要である。それ故、指導者は、ゲームを常に授業の中に取り入れなければならない。私達は、通常、授業の終わりの15～20分をゲーム形式に当てることがよいと考える。このようにして、授業で学んだり、練習したすべての技術をゲームにおいて実践していくことができる。そして、指導者はゲームの中で生徒達に指導したセット練習が、どれくらいのレベルまで技術的に進歩したかをクラスの生徒に示すことができる。また、子供達は早い時期に、ひとつの習得した状況を理解することによって、セット練習の必要や価値を彼ら自身のゲームを通じて能力を伸ばすことができることを認識する。ゴールに得点することの楽しさは、大変重要な刺激であるから、指導者は、それが技術的に正しく行われていなくても、常に励まし、誉めなければならない。初歩的なグループ練習に比べて、複雑な身体とボールの動きは、ハンドボールのゲームでは技術的にかなり富んだプレーである。これらのことは、特別なゲームの技術を教える上での予備的な補助になる。だから子供達にはできるだけゲームをさせるべきである。しかし、20人あるいはそれ以上の多くのグループで練習しているときは、練習と関連したゲームを練習に取り込むことができる。このようにして、クラス全体を参加させることができる。例えば、4対4（または5対5）の2チームをつくり、体育館の片方のサイドにゴールキーパーを1人、一つのゴールエリアのまわりで動かし、そして、同じ人数の子供達を反対側の半分のコートで動かして、練習と関連したゲームを3テクニック「その5」の組み合わせ練習で行う。

●スクールゲーム、トーナメントゲームとしてのミニハンドボールの完成

デンマークの小学校の試験は、スポーツをねらいとしており、また、幼稚園のクラスにも推薦され、試験もはっきりと、極めて広範囲の課題に及ぶべきであると説明されている。これらの課題の一つは、ボールゲーム（球技）であり、これらは投げる、キャッチするといった初歩的な技術と関連している。

さらに、さまざまな初心者向けのゲームの名前があげられているが、これらの中にミニハンドボールがある。子供達が活発な動きで、楽しみを見出し、放課後にも何らかの形でスポーツにかかわり、ミニハンドボ

表1 ミニハンドボールのパターンを簡略化すると、

グループの課題	指導の分野	
	技術面	戦術面
ボールゲーム (競争的要素なし)	投げる、キャッチする、シュートする、ドリブルするなどの練習	なし
簡単なゲーム (競争的)	(1対1)×12 (2対2)× 6 (3対3)× 4 (4対4)× 3 (6対6)× 2 さらに、そのためには 2対3、3対4、4対5などの 練習	なし
組織化 (グループ)		プレーの中で、何をやってよいのか、何をやってはいけないのか。
ゲーム (ミニハンドボール)	1.ハーフコートで練習 5対5、6対6 2.フルコートで練習 5対5	

もっと大きいスケールで、ハンドボールについて異なるパターンを示すと表2のようになる。

ールがトーナメントゲームとして取り上げられるクラブの中で、プレイできるということが大切である。それ故、学校でのルールと、クラブでのルールとの間に行き違いがあってはならない。学校とクラブの違いは、進歩の早さの違いだけである。進歩の早さの違いというのは、クラブでは、プレイヤーが素質的に、特に、(ミニ)ハンドボールに対する素晴らしい能力をもっていると思われるので、クラブの方が進歩が早いだろう。

(指示した要約を参照のこと)

次にあげた進歩の順番で進められる。

1、プレイヤーを二つのグループに分け、それぞれが半分のコートにつく。一方のチームがボールを持ち、どうやってボールをゴールに入れるか。

2、プレイヤーは互いにボールを投げ合う。

3、押したり、囲んだり、打ったりすることは互いに禁じる。

4、ボールを持ったまま多くの歩数を歩いてはいけない。

5、3歩以上、ボールを運んではいけない。

6、ゴールエリアには一人のプレイヤーしか入れない。

7、サイドラインとゴールラインを示す。

8、プレイヤーの人数は、次第に減らす。

9、ルールはより厳しく作る。(特に相手チームのプレイヤーの接触について)

10、個々のプレイヤーの行動半径は増やす。自分はどこへ行けばよいか。

11、4対4のプレイヤーと一人のゴールキーパー。ミニハンドボールのルールで一つのゴールを使って行う。

12、4対4のプレイヤーと2人のゴールキーパー。ミニハンドボールのゲームをコート全面を使って行う。(12m×20m)

●特別なルール

コート全面を使ってゲームを行うことができる段階になると、いくつかの特別なルールを取り入れるとよい。

次のようなポイントを中心に進める。

1、マーキングはゾーンで。

(フリースローライン(点線)の中で)

このことによって、アタッカーは比較的容易に、丁度よいシュートを

表2 学校ではゲームとしてのハンドバールを簡略化したパターンで行う
（クラブでの初期段階の指導も総合されている）

学校ゲームとしてのハンドボール	重点をおくポイント	年齢	簡略化したアウトライン
+	選手（順応）	14～16歳	ハンドボール(7対7) グループ(フルコート)
+		13歳	ハンドボール(7対7) グループ(フルコート)
+		11～12歳	ハンドボール(7対7) グループ(3対3、3対4、4対4、5対5、5対6など) グループで練習
+		9～10歳	フルコートへの適応 専門化がすすむ
+	習慣づけ 導入 トレーニング （他のボールゲームの練習との組み合わせ）専門化	5～ 8歳	ミニハンドボール(5対5)

ハーフコート／フルコート
4対4, 4対5, 5対6,　5対5
6対6

↑

シンプルゲーム 他のボールゲーム との結合	組み合わせ練習 (3対1、3対3、3対4)
競争的ゲーム	小グループ (2対1、2対2、3対3)
パス、ドリブル シュート、キャッチ スロー	ペア練習(1+1) 個人練習(1)

する距離の中に入ることができる。

ゲームを行う早い段階では、ボールを相手から奪うのは非常にやさしい。しかし、ボールを自分でコントロールすることは、ずっと難しい。

2、ゴールにシュートをされる前に、すべてコートにいるプレイヤーは、ボールに触れるべき（ねばならない）である。

このことによって、プレイヤー全員が、ゲームの中で活躍しているという感じになる。

3、最初はたくさんのペナルティースローを練習すること。

ミニハンドボールでのペナルティースローは、反則をされたプレイヤーが行うので、ペナルティースローが多過ぎるということは、ゴールにシュートをする機会を持つプレイヤーが多くなることを意味する。同時にプレイヤーたちは、直ぐに「反則をしない」ことを発見し、これよって、クリーンなハンドボールになっていくだろう。

4、ゴールに得点された後、ゴールキーパーはボールをすぐにプレイに戻す。

これは時間の節約に役立つ。というのもボールをセンターラインま

で持っていかなくてもよいし、同時に得点したチームを素早くディフェンスのポジションにつかせることができる。この特別ルールによって、多くの素早い攻撃が可能になる。
　プレイヤーがゲームの中で、練習を重ねていくにつれて、普通のミニハンドボールのルールをどんどん取り入れていくことができる。

6 ミニハンドボールのルール

（ルールー）プレイエリア
1：1　コート（352号の23頁の下図参照）は、長さ約20m、幅12mの長方形である。
1：2　ゴール（左写真参照）、各ゴールラインの中央に置かれる。各ゴールの内径は、高さ1・6m、幅2・4mである。ゴールポストとクロスバーは8cm×4cmの長方形で二色で塗られている。しかし、まわりの背景と強い調和をなす場合には一色で塗られる。ゴールにはゆるく掛かったネットが張られている。



1：3　ゴールエリアは、普通のハンドボールのコート（ゲーム1：1のルールを参照）と同じ割合で決められる。半径4・5mの二つの半円が描いてある。
1：4　フリースローラインは、普通のハンドボールのコート（ゲーム1：1のルールを参照）同じ割合で描いてある。半径6mの二つの半円が描いてある。
1：5ペナルティーラインは、長さ1mで、中央から5mの距離のところに、それぞれのゴールラインから対角線上に決められる。
1：6　センターラインは長さ10cmで、コートの中央に作られる。
1：7　交代プレイヤーの入場口は長さ10cmで、一方のサイドラインの中心で、それに対して45度の角度のところに作られる。それはコートの内側に印をつける。場所によってこの位置に決められないときは、他にふさわしい入口を作ってもよい。
1：8　コートに作られたラインは、すべてコート内に含まれる場所での一部とされる。それらのラインは、5cmの幅で、はっきり見えるように作る。（1：9の例外を参照）
1：9　ゴールポストの間のゴールラインの部分は、これらと同じ幅4cmがよい。
（コメント）状況によって必要な場合は、フリースローライン（1：4）、センターライン（1：6）、交代プレイヤーの入場口（1：7）は省略してもよい。同様にゴールポストの間のゴールラインも、もし、状況によってそうした方がよい場合、幅5cmにしてもよい。
　この場合、ゴールポストは、その後ろの端がゴールラインの外側の端と同じラインになるように置かなければならない。

　ミニハンドボールは、長い時間をかけて必要とされてきた。特に6～8歳の子供達のための、ハンドボールに似たスポーツに対する要求に応じるものとして作られた。この年齢の子供達には、普通のハンドボールの必要用具では大き過ぎる。それ故、これらの必要用具は、ミニハンドボールでは6～8・9歳のグループの子供達の普通の能力に合うように縮小されている。ミニハンドボールのコートは、まず第一に体育館の使用可能な大きさと調和していなければならない。つまり、普通のハンドボールのコート一つ、横向きの3つのコートが作られる。または、長さの点で、同じ割合で縮小される。体育館の最も短い部分が使われる。20m×12mの長方形が理想的なサイズである。ミニハンドボールのゴールは、幅2・4mで、1・6mの高さである。2つのゴールエリアラインの半円は、常に半径4・5mでなくてはならない。



審判委員会インフォメーション

誌上ルールテスト4

いよいよこのルールテストも４回目になりました。出来具合はどうですか？　解答をすぐに見るのではなく、一度自分でルールブックを調べてみましょう。もっとルール以外でハンドボールのことを知りたい人は、「ハンドボール競技規則必携」も売り出されております。これはルールの条文の解説やオフィシャルをするにあたって、とか審判委員会の活動内容まで盛り沢山。あなたも１冊如何ですか。1500円です。

16　Ｂチームのプレーヤーが反則を犯した。コートレフェリーは失格の判定をして、相手チームにフリスローを与えた。ゴールレフェリーは退場と７ｍスローの判定をした。このプレーヤーはどのように罰せられるか。
（ａ）退場とフリスロー。
（ｂ）退場と７ｍスロー。
（ｃ）失格とフリスロー。
（ｄ）失格と７ｍスロー。

17　次に挙げた場面でレフェリーが原則としてタイムアウトをとるのはどれか。
（ａ）ボールがスタンドに入ってしまい、なかなか戻ってこないとき。
（ｂ）退場の判定をしたとき。
（ｃ）７ｍスローの際に、ＧＫが交替するとき。
（ｄ）ゲーム終了直前に得点が入ったとき。

18　Ａ５はボールをキャッチすることが出来ず、ボールはサイドライン方向に転がっていった。Ａ５は懸命に追いかけサイドライン直前でボールを止めた。しかし、その時に彼の足がサイドラインを踏み越した。
（ａ）問題ない。
（ｂ）Ｂチームにフリスローを与える。
（ｃ）Ｂチームにスローインを与える。
（ｄ）レフェリースローを行なう。

19　ゴルキーパースローの際、ＧＫのＡ１はボールを手放す前に、片足をゴールエリアラインの外側に踏み越してしまった。
（ａ）笛の合図でやり直しさせる。
（ｂ）Ｂチームに７ｍスローを与える。
（ｃ）Ｂチームにフリスローを与える。
（ｄ）プレーはそのまま続行される。

20　プレイングエリアに両足で立っていたＡ３の所へ、ＧＫがはじいたボールが転がってきたので、彼はそれをキャッチした。Ａ３はその直後、相手チームのＢ10に正当なマークを受けたのでボールを自陣のゴールエリア内に数回ドリブルをした。
（ａ）そのまま続行する。
（ｂ）Ｂチームに７ｍスローを与える。
（ｃ）Ｂチームにフリスローを与える。
（ｄ）Ａチームにフリヌローを与える。

解答とその根拠となる条項
16　ｄ（18－８）
17　ａ（２－４、規則解釈１）
18　ａ（11－１）
19　ａ（12－２、16－３）
20　ａ（６－４）

フリースロー

協会一丸で代表強化を

企画・広報委員　早川文司

明けましておめでとうございます。私がこのコラムを書き始めて３年目に入りました。関係者の方々にお詫びしながら、今年も「辛口」に徹したいと一年の計を立てました。これもひとえにハンドボールを愛すればこそとお許しを願いたい。

ところで、昨年は男子の代表がオリンピック予選に敗退、ソウル大会以来12年間もひのき舞台を踏めない屈辱を味わった。今年、日本協会首脳に課せられた最大のテーマは、この余波を一刻も早く断ち切ることである。来年は熊本の世界選手権が控えているだけに、とりわけ男子代表強化に全力を注ぐことが重要である。

代表というのは協会＝国家のチームであることにだれも異論はないだろう。それだけに現状はどうか。負ければすべてスタッフの責任だとする風潮がある。こういった繰り返しでは、脱皮は難しい。なぜなら、スタッフを選んだのは協会そのものだからである。もっと「自分たちのチーム」といった認識を持たなければ、いつまでたっても前進はない。

頭を切り替えてユース＝ジュニア＝シニアの一貫した強化方針を早く明確にすることである。コーチングスタッフの育成、全国各地の埋もれた人材発掘の体制－やらなくてはならないことは山積みしている。とにもかくにも出来るところから素早く取りかかってもらいたい。

ああだ、こうだといっている間に、世界は猛スピードで変わっている。流れから取り残されるのは目に見えている。

フレッシュな発想を持った人材をどんどん登用し、いろんな意見を聞く耳を持ち、協会挙げて強力なバックアップ体制を築き上げることだ。人のやることに批判ばかりしていては展望は開けない。サッカーの代表監督選びのようなごたごたは見苦しい。「みんなの代表チーム」として盛り立てることが、長いトンネルから抜け出る近道ではないだろうか。要はどれだけ真剣な“愛”を深めあえるかである。

私のチームづくり



横浜商工高校監督

渡辺　靖弘

青春を共に いつまでも 頼れるオヤジでいたい コーヒー一杯で 朝まで ハンドボール談議を

部員指導にあたって

部員はご承知の通り15~18歳の高校生、年々その質的変化があり、また、心の浮沈の激しい年齢層を相手とするのは部員に限ったことではない。この高校生をスポーツという分野に引き止め、そこから彼らの人間性を育てていくことは指導者として苦しみ、また、楽しむところであろうかと思う。

いろいろな誘惑と対決し強靭な精神力が最後のより所となりすべての対決を克服していく原動力であろう。

精神力養成

自信と誇りを持たせた時、彼らは自己の力量以上を発揮する。強い気力とガッツの精神を私は重視している。練習への姿勢・心が大切である。心にスキをどんな時・場面でもつくってはいけない。練習の最大の目標は技と力を生かす精神の集中、理屈にかなった動きをいかにさせるかである。勝ちと負けのどちらかしかないこのスポーツの中に「悔しさ」の心を植えつけていく、「悔しくないか」と常に問いかけるところから精神の発奮を促すのである。私の性格は喜怒哀楽を素直に出すところがありスポーツにおける負けほど悔しいものはないと私の性格はとらえる。それを土台として、精神・気力の向上に指導している。練習は常に実践的でありスキをつくらない個々人の心とチームワークに焦点を合わせている。そうした中で試合に勝つと褒めてやる。彼らは勝つことで自信を持ち、自信を持つことで勝っていく。それは、一人一人が自己に勝っていく成長の過程のようにも思える。

さらに商工のハンドボールだという印象をも忘れてはならないと心がけている。

練習についての監督の姿勢

私の頭の中は365日、1日1秒ハンドボールから離れたことはない。何をしている時でもハンドボールに結びつける。部員への説明も理論的裏づけの中でやると意外と早く納得する。そして単純な練習の一つ一つにいかに気合いを入れ自分の力全体でやるかその姿勢づくりが大切である。

最後に、練習から試合・試合から練習へと小さなボールと時間を相手に一体に過ごす私の生活は、ハンドボール漬けである。共に学び育っていくという感覚が最近の私である。生きている限り、青春を共にいつまでもたよれるオヤジでいたい。そしてコーヒー一杯でハンドボール談議を朝まで話す時を楽しみに明日も生きる。

96年男子欧州選手権大会出場12ケ国決まる
（96年5月23日〜6月2日：スペイン）

昨年約1年をかけて行なわれていた欧州選手権大会の予選が昨年12月3日で終了、各組2位までの10ケ国が予選突破、それに前回優勝のスウェーデン、開催国スペインが出場する。本大会は96年5月23日〜6月2日、スペインにて開催される。

(出場国)クロアチア、スロベニア、デンマーク、ドイツ、チェコ、ハンガリー、ロシア、ルーマニア、ユーゴ、フランス、スウェーデン、スペイン。

[グループ1]

クロアチア	27−21	オーストリア
オーストリア	24−29	クロアチア
スロベニア	26−20	トルコ
トルコ	23−23	スロベニア
オーストリア	26−22	スロベニア
スロベニア	27−19	オーストリア
トルコ	23−27	クロアチア
クロアチア	29−26	トルコ
トルコ	25−23	オーストリア
オーストリア	20−20	トルコ
スロベニア	22−19	クロアチア
クロアチア	30−21	スロベニア

[順位]①クロアチア②スロベニア③トルコ④オーストリア

[グループ2]

ハンガリー	28−19	スロバキア
スロバキア	27−27	ハンガリー
チェコ	33−16	マケドニア
マケドニア	27−27	チェコ
スロバキア	23−30	チェコ
チェコ	28−17	スロバキア
マケドニア	26−21	ハンガリー
ハンガリー	29−26	マケドニア
マケドニア	28−26	スロバキア
スロバキア	26−24	マケドニア
チェコ	34−28	ハンガリー
ハンガリー	23−17	チェコ

[順位]①チェコ②ハンガリー③マケドニア④スロバキア

[グループ3]

フランス	24−21	ユーゴ
ユーゴ	25−18	フランス
ベラルーシ	23−17	ベルギー
ベルギー	20−18	ベラルーシ
ユーゴ	27−23	ベラルーシ
ベラルーシ	22−26	ユーゴ
ベルギー	21−20	フランス
フランス	21−9	ベルギー
ベルギー	17−27	ユーゴ
ユーゴ	21−12	ベルギー
ベラルーシ	31−28	フランス
フランス	28−25	ベラルーシ

[順位]①ユーゴ②フランス③ベラルーシ④ベルギー

[グループ4]

ロシア	33−23	ポーランド
ポーランド	21−29	ロシア
ルーマニア	21−19	アイスランド
アイスランド	24−23	ルーマニア
ポーランド	27−29	ルーマニア
ルーマニア	30−22	ポーランド
アイスランド	20−18	ロシア
ロシア	22−14	アイスランド
アイスランド	31−26	ポーランド
ポーランド	21−23	アイスランド
ルーマニア	22−18	ロシア
ロシア	28−20	ルーマニア

[順位]①ロシア②ルーマニア③アイスランド④ポーランド

[グループ5]

デンマーク	23−19	スイス
スイス	26−26	デンマーク
ドイツ	21−21	リトアニア
リトアニア	16−24	ドイツ
リトアニア	20−22	デンマーク
デンマーク	24−20	リトアニア
スイス	23−16	ドイツ
ドイツ	26−13	スイス
リトアニア	27−30	スイス
スイス	23−25	リトアニア
ドイツ	30−26	デンマーク
デンマーク	24−22	ドイツ

[順位]①デンマーク②ドイツ③スイス④リトアニア

上段はホームチーム
下段はアウェーチーム

平成7年度レフェリー・コーチシンポジューム開催

平成7年度(財)日本ハンドボール協会レフェリー・コーチシンポジュームは、既報の通りメイン講師にIHF・CCM委員のアラン・ルンド氏を迎え、1995年のIHFシンポジュームよりの話題提供、世界の動向、ニュールールについて、シンポジュームを進めてまいりたいと考えております。また、男子ナショナルチーム新監督に就任いたしましたオレ・オルソン氏も講師としてお招きしております。97年熊本での世界選手権に向かって、実のあるシンポジュームにして行きたいと存じますので、関係各方面から多数のご参加をお願いいたします。

なお、公認指導者はスポーツ指導者手帳、公認審判員は審判手帳をご持参下さい。者手町帳をご持参ください。

1．日　時　平成8年3月8日(金)13時より3月10日(日)12時10分まで

2．場　所　〒151 東京都渋谷区代々木神園町3-1
東京代々木オリンピック記念青少年総合センター03(3467)7201(代表)
(新宿駅より小田急線で2つめの駅参宮橋で下車、徒歩5分)

3．参加費　3,000円(予定)(資料代別途、指導・審判・強化各委員会より)

4．宿　泊　原則として参加者にはオリンピックセンターに宿泊していただきます。(宿泊費8,000円)。

5．申し込み　各都道府県協会、各連盟に送付してありますので、お問い合わせ下さい。

6．内容と日程

日・時	8日 (金)	9日 (土)	10日 (日)
9:00～10:00		前男子ナショナルチーム監督 蒲生晴明 ナショナルチームに携わって	女子ナショナルチーム監督 樫塚正一 ハンドボールの戦術
10:10～12:10		IHF／CCM委員 アラン・ルンド 世界のハンドボールの技術・戦術的傾向 (討論)	IHF／CCM委員 アラン・ルンド コーチとレフェリーの共同、試合中のレフェリーの行動
12:30	受付	昼食	解散
13:00～15:00	指導委員長・大西武二 日本における指導者の役割 強化委員長・野田清 日本の強化体制を考える 国際審判員・後藤登 IHFのレフェリング指導と日本人国際審判員の達成度	審判委員長・大塚文雄 コーチとレフェリーの共同 －日本の方向性について－ IHF／CCM委員 アラン・ルンド 小学生から大人までの一貫指導 (討論)	
15:10～17:10	レフェリングに関する討論会 レフェリーとコーチのトラブルの原因分析 ルール研究委員・江成元伸	IHF／CCM委員 アラン・ルンド 新ルールと技術の戦術 (討論)	
19:00～20:00	男子ナショナルチーム監督 オレ・オルソン ナショナルチームの指導と方向性	ハンドボールの諸問題に関するディスカッション	

2月の事業予定

2月の事業予定
2／3 常務理事会・全国理事会
2／10～12全日本実業団ハンドボールチャレンジ96(男子)
(福井県・北陸電力体育館)
2／10～12全日本実業団ハンドボールチャレンジ96(女子)
(福井県・北陸電力体育館)
2／24 評議員会

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三六十号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成八年一月二十六日　印刷
平成八年二月一日　発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話　代表　三四八一ー二三六一
振替　〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人　中澤重夫
定価三百五拾円